

# 大網白里町地震ハザードマップ Q&A

1 共通事項

2 ゆれやすさマップ

3 地域の危険度マップ

4 液状化危険度マップ

## 1 共通事項

### Q1 ハザードマップの作成の目的は

A1 建物の所有者に対し、地震の発生のおそれや地震による被害想定を伝えることにより、地震に対する注意喚起や地震防災意識の高揚を図るために作成しました。

### Q2 地震ハザードマップとは

A2 地震ハザードマップとは、地震による被害を予測し、その被害範囲を示したものであり、予測された被害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度などの情報を地図上に図示したものです。

### Q3 想定地震は

A3 「東京湾北部地震（マグニチュード7.3）

「千葉県東方沖地震（マグニチュード6.8）

「三浦半島断層群による地震（マグニチュード6.9）

「全国どこにでも起こりうる直下地震（マグニチュード6.9）

を想定しています。マップの作成に当たっては、メッシュ毎（50mメッシュ）に計算された複数の地震の震度予測結果を重ね合わせ、最大となる震度を採用いたしました。

### Q4 なぜ四角く色塗りされているのですか

A4 今回のマップでは50m×50mの範囲を一つのブロックとして、ゆれやすさや地域の危険度、液状化危険度を評価しています。このためにおよそ50m×50mの範囲毎に色分けされています。

### Q5 50mメッシュとは何ですか

A5 地形に関する標高データのうち、全国一律に整備されているデータの最小単位が50mメッシュであることから、町内を50m毎に区切り、50m四方の升目を1つの単位とする考え方です。

### Q6 地震ハザードマップを見ると揺れやすく危険性が高い地域となっており心配ですが、どうしたらよいですか

A6 昭和56年以前に建てられた旧耐震基準による建物は、現行の耐震基準に満たない可能性が高いため、危険性が高くなります。従って、まず耐震診断を行い、耐震性を確認することをおすすめします。耐震診断等に関しては、町の都市整備課に相談してください。

**Q7 地震ハザードマップはどのように入手したらよいですか**

**A7** 既に区長配布を受けていると思いますが、希望する方は、町役場 1 階受付、中部コミュニティセンター、白里公民館に備えてあります。また、町ホームページでダウンロードすることかできます。

**Q8 地震はいつ起こるのですか**

**A8** 地震はいつどこで起こるかは分かりません。例えば、東京湾北部の地震の様な南関東で発生するマグニチュード7程度の地震は100年~200年に1度発生するといわれています。文部科学省の地震調査研究推進本部では今後30年以内の発生確率は70%程度、50年以内に90%程度と発表しています（平成24年2月9日）。あくまで確率ですので、明日起きるのか、100年後に起きるのかは分かりません。今回のマップを参考にして頂き、地震が起きることを前提として、いつ地震が起きてもご自身の安全が確保できるように、家具を固定したり、家族同士で連絡方法を相談したりといった、心構えをもって地震に備えて頂けると幸いです。

## 2ゆれやすさマップ

**Q1 各地域によって揺れが異なるのはどうしてですか**

**A1** 地盤の硬さによって揺れやすさが異なります。マップ下段の中ほどの「表層地盤の硬さによってゆれやすさが変わります」を参照してください。今回のマップでは地盤の硬さを地形区分（台地、後背湿地、砂州など）から決めていますので、隣どうしでも地形区分が異なると、揺れやすさが異なる結果となっています。

**Q2 私の地域は震度6弱となっていますが、建物は倒壊してしまうのですか**

**A2** 一概にはいえませんが、昭和56年以前に建てられた建物など、耐震性が低い建物は倒壊する可能性があります。また、建物の形状によっては、想定以上の揺れになる可能性があるので注意が必要です。

**Q3 昭和56年以後に建てられた建物は、大地震でも倒壊しないのですか**

**A3** 現在の建築基準法では、比較的起こる可能性が高い震度5程度の中地震に対して建物が損傷することなく機能を維持し、震度6から震度7程度の大地震に対しては、損傷はしても倒壊せずに人命を保護することを目的としています。しかし、建物の被害に関しては、様々な要因が関係しますので一概にはいえません。

**Q4 震度5強・震度6弱はどれくらい揺れるのですか**

**A4** マップ上段中ほどの「地震のゆれってなに？」を参照してください。

震度5強

- ・物につかまらないと歩くことが難しい
- ・棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。
- ・固定していない家具が倒れることがある。
- ・補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱

- ・立っていることが困難になる。
- ・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- ・耐震性の低い木造住宅は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

**Q5 計測震度とはなんですか**

**A5** 計測震度は地震の揺れの大きさを数値的に表したものです。マップ上段中ほどの「計測震度とは？」を参照してください。地震の揺れを数値的に表した計測震度を、ある範囲で段階的に区切ったものが震度になります。

### 3 地域の危険度マップ

**Q1 建物全壊棟数率とはなんですか**

**A1** ある区域内(今回のマップでは大字を基本とする)にあるすべての建物のうち、何棟が全壊する可能性があるかを示す指標です。例えば10%だと100棟のうち、10棟が全壊する可能性があります。マップ右上の「建物全壊棟数率とは？」を参照してください。

**Q2 危険度が高いのは、どのような理由ですか**

**A2** 昭和56年以前に建築された木造の建物が多い地域であって、ゆれやすさマップにおける震度が大きい場合は地域の全壊率が高くなります。

**Q3 危険度が高い地域にある建物は、大地震によって全壊する可能性が高いのですか**

**A3** 危険度が高い地域であっても、昭和56年以降に建てられた建物など、比較的新しい建物は全壊する可能性は低くなります。しかし、建物の被害については、さまざまな要因が関係するので一概には言えません。

**Q4 揺れやすさが同じ地域で危険度が違うのはどうしてですか**

**A4** 地域の危険度は、ゆれやすさマップによる震度から建築物が全壊する割合を計算し分類しています。同じ震度の地域であっても、その地域にある建物の構造、建築年、建物の数が異なると、危険度が異なることがあります。揺れが強い地域が必ずしも危険度が高いということではありません。

**Q5 危険度が高い地域に住んでいるのですが大丈夫でしょうか**

**A5** 今回のマップは個々の建物を対象としていません。地域として見た場合に相対的に危険度が高いと判断されます。

**Q6 我が家のある場所に色が塗られていないのですが**

**A6** 今回のマップは、建物がない水田や畑、山林については地域の危険度は着色していません。家屋があるか無いかのデータは、平成13年度に作成した町の白地図と平成23年度の国土地理院のデータを基にしています。最近建てられた新しい建物はマップに反映されていないことがあります。お手数ですが、マップで周辺状況からご自宅の状況を推定していただければと思います。

## 4 液状化危険度マップ

### Q1 液状化とはなんですか

A1 液状化とは、地下水位以下にゆるい砂の地層があると、地震の揺れにより砂粒どうしの接触が崩されて砂層が泥水のようになり、地盤の強さが失われる現象です。マップ左上の「液状化現象とは？」を参照してください。

### Q2 液状化とはどこでも起こるのですか

A2 液状化が生じる条件として、

- ①砂層が分布していること
  - ②砂層が緩いこと
  - ③砂層が地下水位より下に分布していること（水で飽和されていること）
- の3つの条件が揃っている場所で発生します。

また、弱い地震の時に発生しなくても、強い地震の時に発生することがあります。

### Q3 黄色の場所ではすべて液状化するのですか

A3 今回のマップでは、地形区分（台地、後背湿地、砂州など）毎に液状化し易い所を相対的に示しています。同じ色で塗られていても、地盤の構成（砂か粘土かの違いや硬さ等）で液状化が発生したり、しなかったりします。

また、小さい池を埋めた所や液状化対策を実施した場所など、個別の条件は考慮されていません。

### Q4 白色の場所では液状化は起きないのですか

A4 白色の場所は台地や丘陵地であり、液状化が生じる緩い砂質土層が一般的にあまり分布していない地域なので液状化が起こる可能性はほとんどないと考えられます。ただし、盛土や埋土などの人工的に改変した箇所があると、白色の場所に該当していても、部分的に液状化が発生する可能性があります。

### Q5 平成24年4月に千葉県から発表されている液状化しやすさマップとの違いはなんですか

A5 考慮している地震の大きさと液状化判定の方法（液状化するかしないかの判定）が異なります。

#### 【地震動の大きさについて】

今回のマップではある場所で地震が起きた場合を想定して地震の大きさを決めており、町内で震度5強～6弱の揺れとなった場合の液状化が生じる可能性を表わしています。千葉県の想定では地震を特定せずに、県内全域で震度5弱～6強の揺れが生じた場合の液状化の生じる可能性を示しています。またマグニチュードについても今回のマップではマグニチュード7程度を想定していますが、千葉県の想定

ではマグニチュード9程度（東日本大震災と同じ程度）も考慮されています。

【判定方法の違いについて】

今回のマップでは地形区分をもとに液状化が発生する可能性を検討していますが、千葉県の想定ではボーリング調査（深さ方向の地盤の種類や硬さを調べるための調査）の結果をもとに液状化が発生する可能性を検討しています。